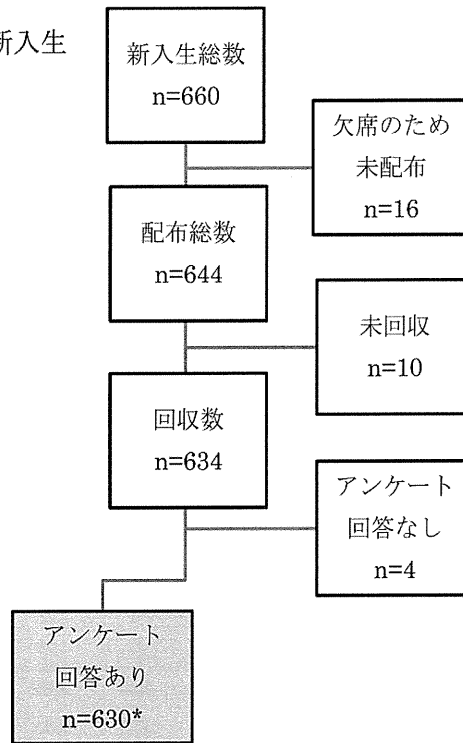
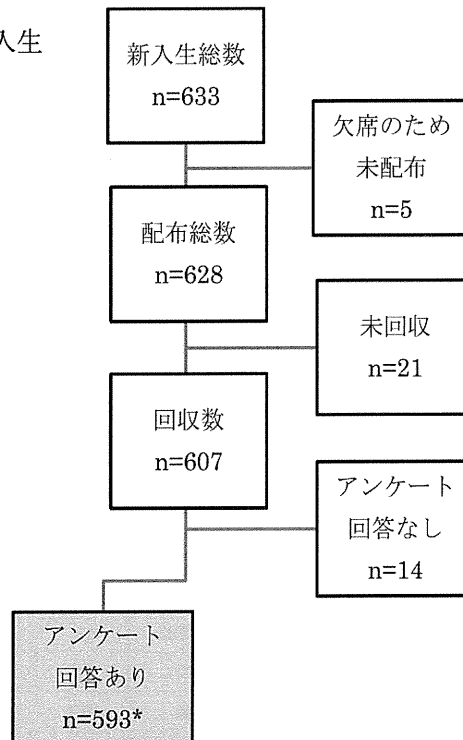


図4. 2011年度新入生



*医学部以外（508人），医学部看護学科（91人），医学部医学科（31人）

図5. 2012年度新入生



*医学部以外（463人），医学部看護学科（96人），医学部医学科（34人）

表13. 2011年度新入生の平均年齢, HPVワクチン接種の有無, がん検診受診の有無

	人数	平均年齢±標準偏差 (最小値-最大値, 中央値)	人数 %	HPVワクチン接種			子宮頸がん検診受診		
				あり	なし	無回答	あり	なし	無回答
全体	630	18.7±2.62 (18-46, 18)	34 5.4%	589 93.5%	7 1.1%	20 3.2%	604 95.9%	6 1.0%	
国大	508	18.7±2.86 (18-46, 18)	29 6.7%	474 93.3%	5 1.0%	19 3.7%	484 95.3%	5 1.0%	
市大看護学科	91	18.7±0.84 (18-25, 18)	4 4.4%	85 93.4%	2 2.2%	1 1.1%	89 97.8%	1 1.1%	
市大医学科	31	18.7±2.02 (18-29, 18)	1 3.2%	30 96.8%	0 0.0%	0 0.0%	31 100.0%	0 0.0%	

表14. 2012年度新入生の平均年齢, HPVワクチン接種の有無, がん検診受診の有無

	人数	平均年齢 標準偏差			人数 %	HPVワクチン接種			子宮頸がん検診受診		
		最小値	最大値	中央値		あり	なし	無回答	あり	なし	無回答
全体	593	18.4	1.48		80 13.5%	504 85.0%	9 1.5%	14 2.4%	572 96.5%	7 1.2%	
		18	48	18							
国大	463	18.4	1.48		54 11.7%	401 86.6%	8 1.7%	11 2.4%	445 96.1%	7 1.5%	
		18	48	18							
市大看護学科	96	18.3	1.04		18 18.8%	77 80.2%	1 1.0%	2 2.1%	94 97.9%	0 0.0%	
		18	25	18							
市大医学科	34	18.5	0.57		8 23.5%	26 76.5%	0 0.0%	1 2.9%	33 97.1%	0 0.0%	
		18	20	18							

図6. 子宮頸がんに関する質問の正解率の3年間の比較

図7. HPVワクチンに関する質問の正解率の3年間の比較

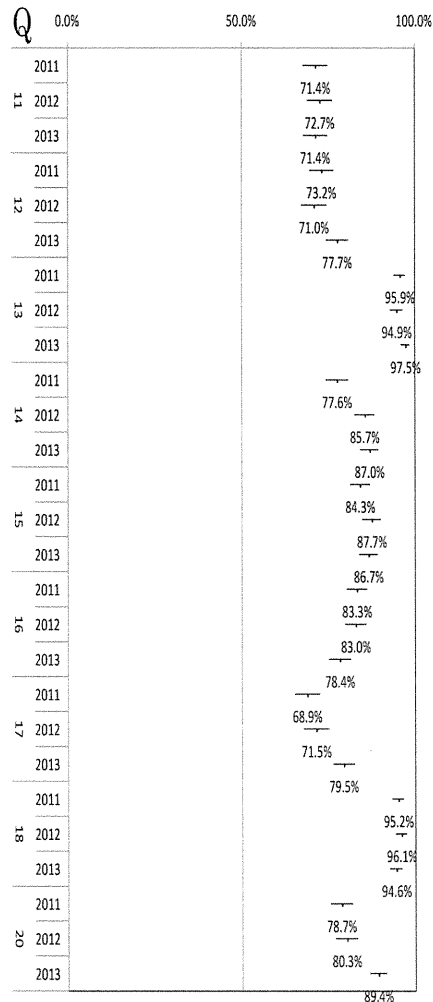
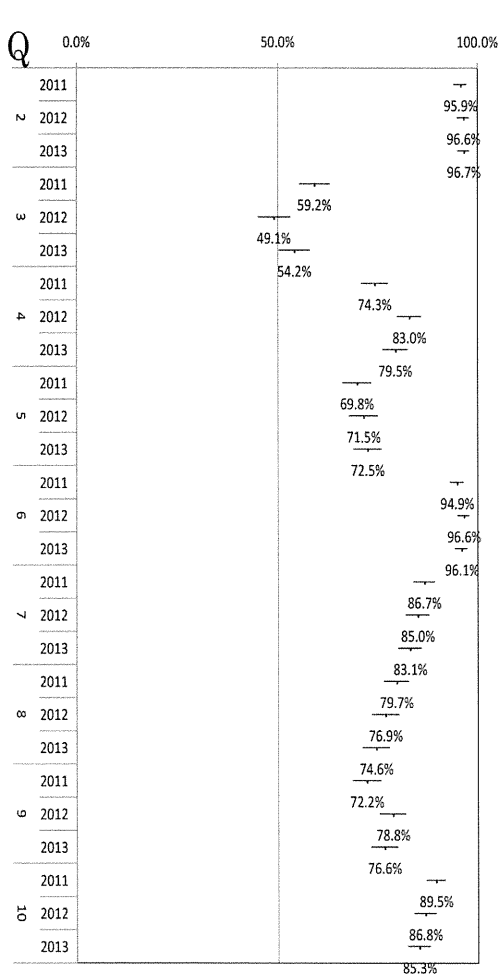


図8. 子宮頸がん検診に関する質問の正解率の3年間の比較

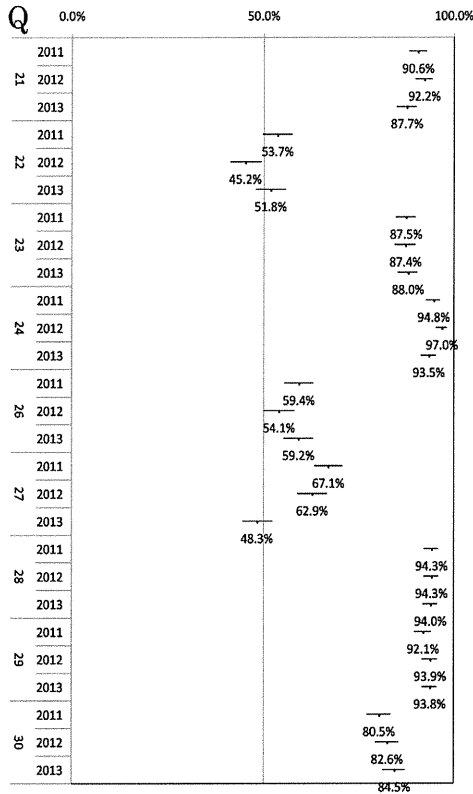


図9. 子宮頸がんに関する質問の正解率の2011年入学時と2年後の比較

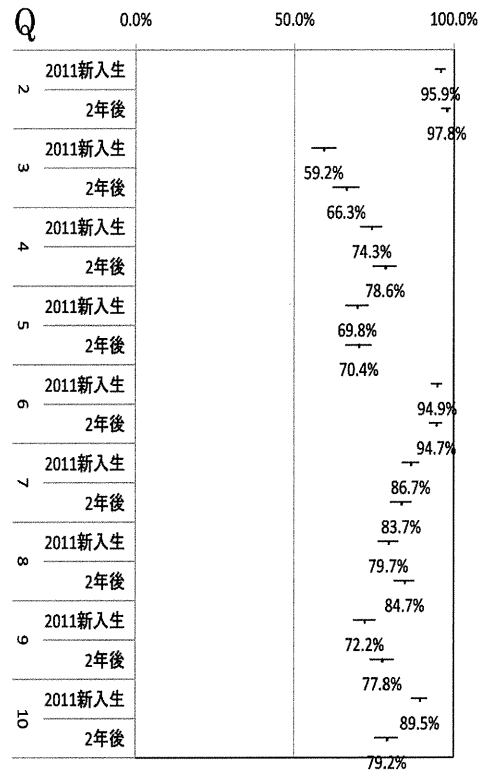


図10. HPVワクチンに関する質問の正解率の2011年入学時と2年後の比較

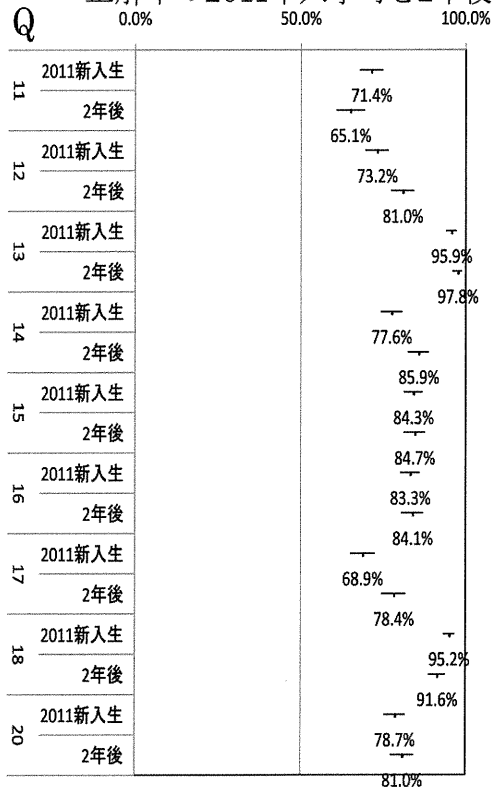


図11. 子宮頸がん検診に関する質問の正解率の2011年入学時と2年後の比較

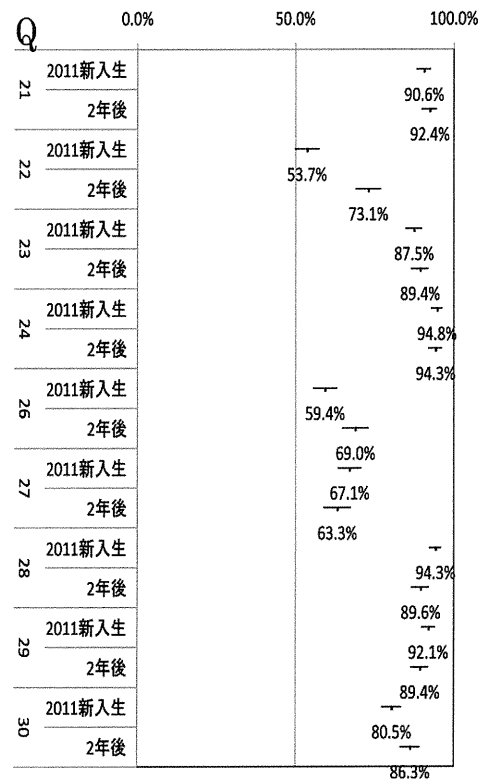


表15. HPVワクチンとがん検診の認知の男女比較

全数	2013年度実施男子学生		2013年度実施女子学生	
	人数	(%)	人数	(%)
HPVワクチンの認知				
ワクチンを知っていた	43	29.9%	224	71.8%
ワクチンを知らなかった	98	68.1%	87	27.9%
無回答	3	2.1%	1	0.3%
計	144	100.0%	312	100.0%
χ ² 二乗検定(無回答除く) p<0.001				
子宮頸がん検診の認知				
子宮頸がん検診を知っていた	74	51.4%	203	65.1%
子宮頸がん検診を知らなかった	69	47.9%	103	33.0%
無回答	1	0.7%	6	1.9%
計	144	100.0%	312	100.0%
*χ ² 二乗検定(無回答除く)				
χ ² 二乗検定(無回答除く) p=0.003				

表16. 子宮頸がんに関する質問と正解率(2013年度男女合同アンケート)

質問	正解	全数	正解者数	95%信頼区間			
				上限値	下限値	正解率	
1 子宮がんというのは、 子宮頸部にできるがんのことである	×	全体	456	65	17.8%	11.2%	14.3%
		男子学生	144	17	18.2%	7.0%	11.8%
		女子学生	312	48	19.9%	11.6%	15.4%
2 子宮頸がんは20~40歳の女性で かかる人が増えている傾向にある	○	全体	456	422	94.8%	89.7%	92.5%
		男子学生	144	129	94.1%	83.4%	89.6%
		女子学生	312	293	96.3%	90.7%	93.9%
3 20~39歳の女性特有のがんで 一番多いのは子宮頸がんである	○	全体	456	251	59.7%	50.3%	55.0%
		男子学生	144	85	67.1%	50.5%	59.0%
		女子学生	312	166	58.8%	47.5%	53.2%
4 子宮頸がんの発症にヒトパピローマ ウイルス(HPV)が関係している	○	全体	456	322	74.8%	66.2%	70.6%
		男子学生	144	106	80.6%	65.6%	73.6%
		女子学生	312	216	74.3%	63.8%	69.2%
5 子宮頸がんで亡くなる女性は 年間2,500人以上である	○	全体	456	299	69.9%	61.0%	65.6%
		男子学生	144	108	81.8%	67.1%	75.0%
		女子学生	312	191	66.7%	55.6%	61.2%
6 10代で子宮頸がんにかか ることはない	×	全体	456	416	93.7%	88.2%	91.2%
		男子学生	144	123	90.7%	78.6%	85.4%
		女子学生	312	293	96.3%	90.7%	93.9%
7 子宮頸がんの治療は 手術以外にはない	×	全体	456	350	80.6%	72.6%	76.8%
		男子学生	144	110	83.1%	68.6%	76.4%
		女子学生	312	240	81.5%	71.8%	76.9%
8 子宮頸がんになるとその後は絶 対妊娠することはできない	×	全体	456	317	73.7%	65.1%	69.5%
		男子学生	144	99	76.2%	60.5%	68.8%
		女子学生	312	218	74.9%	64.4%	69.9%
9 性経験がHPV感染に 関係している	○	全体	456	313	72.9%	64.2%	68.6%
		男子学生	144	102	78.1%	62.7%	70.8%
		女子学生	312	211	72.8%	62.1%	67.6%
10 HPVで起こるがんは 子宮頸がんだけである	×	全体	456	384	87.4%	80.5%	84.2%
		男子学生	144	106	80.6%	65.6%	73.6%
		女子学生	312	278	92.3%	85.1%	89.1%

表17. HPVワクチンに関する質問と正解率(2013年度男女合同アンケート)

	正解		全数	正解者数	95%信頼区間		
					上限値	下限値	正解率
11 HPVワクチンはすべての型のHPV感染を予防するワクチンである	×	全体	456	288	67.6%	58.5%	63.2%
		男子学生	144	84	66.5%	49.8%	58.3%
		女子学生	312	204	70.7%	59.8%	65.4%
12 HPVワクチンは2種類ある	○	全体	456	300	70.1%	61.2%	65.8%
		男子学生	144	101	77.5%	62.0%	70.1%
		女子学生	312	199	69.1%	58.2%	63.8%
13 HPVワクチンは、日本で打つことができる	○	全体	456	429	96.1%	91.5%	94.1%
		男子学生	144	126	92.4%	81.0%	87.5%
		女子学生	312	303	98.7%	94.6%	97.1%
14 性経験を持つ前にワクチンを打つほうがよい	○	全体	456	373	85.2%	77.9%	81.8%
		男子学生	144	115	86.1%	72.4%	79.9%
		女子学生	312	258	86.7%	78.0%	82.7%
15 HPVワクチンを受けていれば子宮頸がんにはかからない	×	全体	456	376	85.8%	78.6%	82.5%
		男子学生	144	110	83.1%	68.6%	76.4%
		女子学生	312	266	89.0%	80.8%	85.3%
16 性経験を持った後でも、HPV感染予防の効果が期待できる	○	全体	456	363	83.2%	75.6%	79.6%
		男子学生	144	119	88.4%	75.4%	82.6%
		女子学生	312	244	82.7%	73.2%	78.2%
17 HPVワクチンは3回の接種が必要だ	○	全体	456	347	79.9%	71.9%	76.1%
		男子学生	144	93	72.4%	56.2%	64.6%
		女子学生	312	254	85.6%	76.6%	81.4%
18 HPVワクチンさえ打ったら性行為で感染する病気の心配はない	×	全体	456	413	93.1%	87.5%	90.6%
		男子学生	144	122	90.2%	77.8%	84.7%
		女子学生	312	291	95.8%	89.9%	93.3%
19 HPVワクチンの接種費用は自費の場合、全部で1~2万円程度だ	×	全体	456	161	39.9%	30.9%	35.3%
		男子学生	144	57	48.1%	31.5%	39.6%
		女子学生	312	104	38.9%	28.1%	33.3%
20 日本ではHPVワクチン接種の公費助成はまったく受けられない	×	全体	456	362	83.0%	75.4%	79.4%
		男子学生	144	93	72.4%	56.2%	64.6%
		女子学生	312	269	89.8%	81.9%	86.2%

表18. 子宮頸がん検診に関する質問と正解率(2013年度男女合同アンケート)

	正解		全数	正解者数	95%信頼区間		
					上限値	下限値	正解率
21 子宮頸がん検診は主に産婦人科医が行っている	○	全体	456	361	82.8%	75.1%	79.2%
		男子学生	144	118	87.9%	74.7%	81.9%
		女子学生	312	243	82.4%	72.9%	77.9%
22 子宮頸部をこすって細胞を取る検査である	○	全体	456	210	50.8%	41.4%	46.1%
		男子学生	144	70	57.1%	40.2%	48.6%
		女子学生	312	140	50.6%	39.3%	44.9%
23 子宮頸がんは、がん検診で早期発見することができる	○	全体	456	388	88.2%	81.5%	85.1%
		男子学生	144	124	91.3%	79.4%	86.1%
		女子学生	312	264	88.4%	80.1%	84.6%
24 生理以外に出血があっても若ければ、子宮頸がん検診の必要はない	×	全体	456	407	91.9%	86.0%	89.3%
		男子学生	144	118	87.9%	74.7%	81.9%
		女子学生	312	289	95.3%	89.1%	92.6%
25 性交経験があっても、若ければ検診の必要はない	×	全体	456	418	94.0%	88.7%	91.7%
		男子学生	144	125	91.9%	80.2%	86.8%
		女子学生	312	293	96.3%	90.7%	93.9%
26 20歳以上の女性には、子宮頸がん受診のための地方自治体からの補助がある	○	全体	456	278	65.5%	56.3%	61.0%
		男子学生	144	104	79.4%	64.2%	72.2%
		女子学生	312	174	61.4%	50.1%	55.8%
27 20歳以上で検診を受けている人は50%程度である	×	全体	456	249	59.2%	49.9%	54.6%
		男子学生	144	79	63.2%	46.4%	54.9%
		女子学生	312	170	60.1%	48.8%	54.5%
28 子宮頸がん検診を受けていれば、がんにはならない	×	全体	456	416	93.7%	88.2%	91.2%
		男子学生	144	121	89.6%	77.0%	84.0%
		女子学生	312	295	96.8%	91.4%	94.6%
29 HPVワクチンを受けていれば子宮頸がん検診の必要はない	×	全体	456	403	91.2%	85.1%	88.4%
		男子学生	144	117	87.3%	73.9%	81.3%
		女子学生	312	286	94.5%	88.0%	91.7%
30 検診間隔は1~2年ごとがよい	○	全体	456	372	85.0%	77.7%	81.6%
		男子学生	144	108	81.8%	67.1%	75.0%
		女子学生	312	264	88.4%	80.1%	84.6%

子宮頸がんに関するアンケート調査

用紙を開くと、アンケートがありますので答えてください。

女子学生はすべての項目、

男子学生は大文字の項目のみお答えください。

最後にすべて記入が済んでいるかもう一度確認してください。

では、よろしく申し上げます。

横浜市立大学子宮頸がん予防プロジェクト

横浜国立大学合同研究グループ

I. 子宮頸がんについて

正しいと思う場合は「はい」、間違っていると思う場合は「いいえ」に○をつけてください。

1	子宮がんというのは、子宮頸部にできるがんのことである	はい	いいえ
2	子宮頸がんは20～40歳の女性でかかる人が増えている傾向にある	はい	いいえ
3	20～39歳の女性特有のがんで一番多いのは子宮頸がんである	はい	いいえ
4	子宮頸がんの発症にヒトパピローマウイルス（HPV）が関係している	はい	いいえ
5	子宮頸がんで亡くなる女性は年間2500人以上である	はい	いいえ
6	10代で子宮頸がんにかかることはない	はい	いいえ
7	子宮頸がんの治療は手術以外にはない	はい	いいえ
8	子宮頸がんになるとその後は絶対妊娠することはできない	はい	いいえ
9	性経験がHPV感染に関係している	はい	いいえ
10	HPVで起こるがんは子宮頸がんだけである	はい	いいえ

II. HPVワクチンについて その1

正しいと思う場合は「はい」、間違っていると思う場合は「いいえ」に○をつけてください。

11	HPVワクチンはすべての型のHPV感染を予防するワクチンである	はい	いいえ
12	HPVワクチンは2種類ある	はい	いいえ
13	HPVワクチンは、日本で打つことができる	はい	いいえ
14	性経験を持つ前にワクチンを打つほうがよい	はい	いいえ
15	HPVワクチンを受けていれば子宮頸がんにはかからない	はい	いいえ
16	性経験を持った後でも、HPV感染予防の効果が期待できる	はい	いいえ
17	HPVワクチンは3回の接種が必要だ	はい	いいえ
18	HPVワクチンさえ打ったら性行為で感染する病気の心配はない	はい	いいえ
19	HPVワクチンの接種費用は自費の場合、全部で1～2万円程度だ	はい	いいえ
20	日本ではHPVワクチン接種の公費助成はまったく受けられない	はい	いいえ

III. HPVワクチンについて その2

御自身の経験、考え方についてお答えください。

そう思う場合には「はい」に、そう思わない場合には「いいえ」に○をつけてください。

21	HPVワクチンがあることを知っていた ⇒「はい」の場合は何で情報を得た？ (親・兄弟・友人・自治体からのお知らせ・学校の授業・インターネット・その他：)	はい	いいえ
22	HPVワクチンをすでに接種した ⇒「はい」の場合はどこで？何歳？接種回数と費用は？ (場所：産婦人科・内科・小児科，年齢： 歳，接種回数： 回，費用：自費・公費)	はい	いいえ
23	将来的にHPVワクチンを受けたいと思う	はい	いいえ
24	HPVワクチンは費用が高いから打ちたくない	はい	いいえ
25	HPVワクチンは副作用が怖いから打ちたくない	はい	いいえ
26	HPVワクチンはまだ若いので必要ないと思っている	はい	いいえ
27	高校生の時に麻疹・風疹ワクチン（MRワクチン）接種を受けましたか	はい	いいえ

IV. 子宮頸がん検診について その1

正しいと思う場合は「はい」、間違っていると思う場合は「いいえ」に○をつけてください。

28	子宮頸がん検診は主に産婦人科医が行っている	はい	いいえ
29	子宮頸部をこすって細胞を取る検査である	はい	いいえ
30	子宮頸がんは、がん検診で早期発見することができる	はい	いいえ
31	生理以外に出血があっても若ければ、子宮頸がん検診の必要はない	はい	いいえ
32	性交経験があっても、若ければ検診の必要はない	はい	いいえ
33	20歳以上の女性には子宮頸がん受診のための地方自治体から補助がある	はい	いいえ
34	20歳以上で検診を受けている人は50%程度である	はい	いいえ
35	子宮頸がん検診を受けていれば、がんにはならない	はい	いいえ
36	HPVワクチンを受けていれば子宮頸がん検診の必要はない	はい	いいえ
37	検診間隔は1~2年ごとがよい	はい	いいえ

V. 子宮頸がん検診について その2 御自身の経験、考え方についてお答えください。

そう思う場合には「はい」に、そう思わない場合には「いいえ」に○をつけてください。

38	子宮頸がん検診を知っていた ⇒「はい」の場合は何で情報を得た？ (親・兄弟・友人・自治体からのお知らせ・学校の授業・インターネット・その他)	はい	いいえ
39	子宮頸がん検診を受けたことがある	はい	いいえ
40	将来的に子宮頸がん検診を受けたいと思う	はい	いいえ
41	検査が怖いので受けたくない	はい	いいえ
42	産婦人科や検診機関に行く時間がかかるので受けたくない	はい	いいえ
43	まだ若いので必要ないと思う	はい	いいえ

VI. 性教育について

御自身の経験、考え方についてお答えください。

そう思う場合には「はい」に、そう思わない場合には「いいえ」に○をつけてください。


44	学校の性教育の授業で、性行為で感染する病気について教わったことがある	はい	いいえ
45	性教育を家庭で受けたことがある	はい	いいえ
46	その他のところで性教育を受けた 「はい」の場合はどこで？⇒()	はい	いいえ
47	教えてもらったことは役に立っている	はい	いいえ
48	子宮頸がんやHPVワクチンについての内容があった	はい	いいえ
49	HPVワクチン接種と同時に正しい性教育が非常に大切だと思う	はい	いいえ
50	子宮頸がんが性的感染の結果であることは、あなたの男性観・結婚観に大きな影響を与える	はい	いいえ

記入日: 年 月 日

年齢: 歳 性別: 男・女 学部: 学年: 年

性経験: なし・あり (初交年齢 歳)

高校の時の居住地: 都道府県: 市区町村 現居住地: 市区町村

 裏面にも記入してください

子宮頸がんやHPVワクチン, 子宮がん検診について思っていることを自由に書いてください.

～ ご協力ありがとうございました ～

子宮頸がんに関する情報を掲載したサイトを説明用紙の裏に記載しました.
このアンケートがみなさんの子宮頸がんやHPVへの関心につながると幸いです.

ソーシャルネットワークサイトを用いた 若年女性の子宮頸がん予防意識・行動調査に関する研究

研究代表者: 宮城 悦子 横浜市立大学附属病院 化学療法センター長 准教授
研究協力者: 元木 葉子 横浜市立大学大学院 医学研究科 生殖生育病態医学 博士課程
佐藤 美紀子 横浜市立大学附属病院 産婦人科 講師
森田 智視 横浜市立大学附属市民総合医療センター
大学院・医学研究科 臨床統計学・疫学 教授
田栗 正隆 横浜市立大学学術院 医学群臨床統計学・疫学 助教
平原 史樹 横浜市立大学大学院 医学研究科 生殖生育病態医学 教授

研究要旨

本研究事業の周知を目的として開設した「横浜・神奈川子宮頸がん予防プロジェクトホームページ(HP)」とフェイスブック(FB)のバナー広告のソーシャルネットワークサイト(以下 SNS)を活用し、16 歳～35 歳の神奈川県在住の女性をターゲットとする若年女性を SNS から一定期間に調査研究へ勧誘し、独立したウェブサイトでのアンケート調査を実施することが可能かについて検討し、参加者の特性や子宮頸がん予防に関連する意識と行動について分析した。2012 年 7 月から 2013 年 3 月までに 243 名の対象女性がアンケート調査の回答を完了した。研究参加者は、神奈川県の対象者人口に比較して、26 歳～35 歳、横浜市在住、高校卒業より高い学歴を有する女性が多かった。また、研究参加者の 68%がヒトパピローマウイルス(HPV)を認知、80%が HPV ワクチンを認知、65%に子宮頸がん検診受診歴があったが、HPV ワクチン接種率は 12%であった。SNS からの研究勧誘では、高学歴で健康意識が高い女性というバイアスがあるものの、若者を対象として研究を行う際には、現代社会に適合した費用対効果の高い効果的な手法であると考えられる。

A. 研究目的

3 年間の本研究事業の全体像を一般市民や行政関係者に周知するために、2011 年度に「横浜・神奈川子宮頸がん予防プロジェクト」の呼称のホームページ(以下 HP)を立ち上げた。本年度は、その HP サイトとフェイスブック(以下 FB)のソーシャルネットワークサイト(以下 SNS)上のバナー広告を活用し、ターゲットとする若年女性を SNS から一定期間に調査研究へ勧誘し、子宮頸がん予防に

関する調査研究を行うことが可能かを検討した。

B. 研究方法

研究同意時点で 16 歳～35 歳の神奈川県在住の女性で、横浜・神奈川子宮頸がん予防プロジェクト HP または FB 上の研究参加勧誘のバナーより研究用ウェブサイトへアクセスし、参加登録した女性に研究事務局より文書による研究参加の同意書を郵送した。

その後、文書による同意が得られた者に対して、独立したアンケートサイトへの誘導をEメールにて行い、期間内の回答数と参加者の背景、頸がん予防意識と行動を調査した。未成年者には両親からの文書による同意も得た。セキュリティの高いアンケートサイトでは、事務局より配布したIDを入力し回答することで個人情報保護した。本研究は、横浜市立大学医学研究倫理委員会での承認を経て実施した。

C. 研究結果

SNSを利用した研究参加者リクルートの方法として、FB広告とHP上のバナーおよび研究申し込みサイトのイメージを図1に示した。2012年7月～2013年3月までの期間に、FB広告よりリクルートされた127名、横浜・神奈川子宮頸がん予防プロジェクトHPよりリクルートされた116名の合計243名がウェブサイト上のアンケート調査を終了した(図2)。

参加者は、26歳～35歳が全参加者の67.9%を占め、神奈川県の対象者人口57.2%に比較して有意に多かった。また、横浜市在住者が58.8%(対象人口では40.4%)、高校卒業より高い学歴を有する女性が78.2%(対象人口では47.3%)と有意に多かった(表1)。また、子宮頸がん予防と関連した意識・行動としては、研究参加者の67.9%がヒトパピローマウイルス(HPV)を認知、79.8%がHPVワクチンを認知、65.0%に子宮頸がん検診受診歴があったが、HPVワクチン接種率は12.3%であった(表2)。

D. 考察

オーストラリアで行われた同様の手法を用いた研究^{1,2)}と同様に、SNSからの研究勧

誘では、高学歴で健康意識が高い女性の参加というバイアスがあるものの、日本でも若者を対象とした調査研究を行うことが可能なことが明らかになった。

本研究で、横浜市在住女子の参加者が多かったのは、横浜市立大学からの様々な子宮頸がん予防の情報発信がなされたことにより、横浜市在住の女性に情報がより届きやすかった可能性がある。HPVあるいはHPVワクチンの認知率が高かった背景には、2011年度より日本全国で広く開始されたHPVワクチンの公費助成の影響が考えられる。調査対象者では、実際に公費助成によるHPVワクチン接種の対象年齢者は5人と少なかったにもかかわらず、自費でのHPV接種のキャッチアップ接種対象となることもあり、研究参加者がHPV感染への関心の高い集団であったことがうかがわれる。さらに、われわれ研究班の大重研究分担者らによる調査で、HPVワクチンの公費助成対象外の2012年度の大学新入女子大生でも、HPVワクチンの認知度は64.4%であったことから、10代後半～30代前半の日本人女性のHPV感染や子宮頸がんへの関心が高くなっている可能性もある³⁾。また、今回の研究参加者で、子宮頸がん検診を一回でも受けたことがあると回答した女性は65%に及んでおり、この数字は横浜市立大学附属病院でHPVワクチンの任意接種を受けた20歳以上の医学部関係者の検診経験率60%⁴⁾より高く、参加者は極めて健康に関心がある集団であることも示唆された。一方で、HPVワクチンの実際の接種率は12%と低く、自費での3回接種に約5万円の費用がかかるHPVワクチンキャッチアップ接種は、本邦の現状では困難であると考えられる。

今回、243人の女性を本研究にリクルート

するのに要した広告費用は合計約 23 万円であったが、企業に依頼した場合の電話や訪問調査、ウェブアンケート調査の見積もりはすべて 150 万円以上であった。よって、今回の手法による SNS の調査研究への利用は、現代社会に適合した費用対効果の高い手法であると考えられる。また、一定目標数の神奈川県に在住する 16 歳～35 歳の女性が、SNS を通じて研究参加意志を表明し、個人情報保護に十分に配慮したセキュリティの高いウェブサイト上で、個人的な事柄にも踏み込んだ調査研究に参加し、約 15 分程度の時間を要するアンケートへの回答を完了できたことは、本邦での今後の SNS を用いた調査研究の様々な可能性を示唆するものである。

E. 結論

今回の研究参加者は、子宮頸がん予防に極めて関心の高い集団であることが明らかになった。また、SNS を駆使した若年者をターゲットとした調査研究への勧誘は、従来の手法に比べて効率的である可能性があり、今後の医学研究への応用が期待できる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Miyagi E, Sukegawa A, Motoki Y, Kaneko T, Maruyama Y, Asai-Sato M, Numazaki R, Mizushima S, Hirahara F: Attitudes toward cervical cancer screening among women receiving HPV vaccination in a university hospital-based community: interim two-year follow-up results: J

Obstetrics Gynaecol Res. Published online: 15 JAN 2014 ; DOI: 10.1111/jog.12288.

2. 学会発表 等

宮城悦子: 市民公開講座「女性のためのがん検診」. 第 19 回日本産婦人科乳癌学会, 東京, 2013, 3.

宮城悦子:【基調講演】子宮頸がん予防のこれから. 第 18 回金沢区小児科医会学術講演会, 横浜, 2013, 3.

宮城悦子: 臨床医として押さえておきたい HPV ワクチンのポイント～予防接種最新情報と併せて～ レクチャー子宮頸がん予防の将来を考える～知らないをなくしたい～. Medical Tribune 予防接種セミナー, 神戸, 2013, 4.

宮城悦子:【基調講演】日本の子宮頸がん予防のこれから. 平成 25 年度 岩手県産科婦人科学会総会・学術講演会, 盛岡, 2013, 4.

宮城悦子:【特別講演】子宮頸がん予防～日本のこれから～. 石川県産婦人科医会学術講演会, 金沢, 2013, 4.

宮城悦子: 日本の子宮頸がんとう子頸がん検診の現状. 第 54 回日本臨床細胞学会総会(春期大会)市民公開講座, 東京, 2013, 6.

宮城悦子: 子宮頸がんを正しく知って予防しよう. 藤沢市市民公開講座, 藤沢, 2014, 2.

Miyagi E, Motoki Y, Asai-Sato M, Sukegawa A, et al; Web-based recruiting and survey on knowledge for cervical cancer prevention among young Japanese women: a pilot study. European Research Organisation on Genital Infection and Neoplasia (EUROGIN) 2013, Florence,

2013, 11.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

[参考文献]

- 1) Fenner Y, Garland SM, Moore EE, et al; Web-based recruiting for health research using a social networking site: an exploratory study. J Med Internet Res. Feb 1; 14(1):e20, 2012.
 - 2) Gunasekaran B, Jayasinghe Y, Fenner Y, et al; Knowledge of human papillomavirus and cervical cancer among young women recruited using a social networking site. Sex Transm Infect. Oct 9. [Epub ahead of print], 2012.
 - 3) 厚生労働科学研究補助金 がん臨床研究事業 地方自治体および地域コミュニティ単位の子宮頸がん予防対策が若年女性の意識と行動に及ぼす効果の実効性の検証. 平成24年度総括・分担研究報告書(研究代表者 宮城悦子).
- Miyagi E, Sukegawa A, Motoki Y, Kaneko T, Maruyama Y, Asai-Sato M, Numazaki R, Mizushima S, Hirahara F: Attitudes toward cervical cancer screening among women receiving HPV vaccination in a university hospital-based community: interim two-year follow-up results: J Obstetrics Gynaecol Res. Published online: 15 JAN 2014 ; DOI: 10.1111/jog.12288.

【横浜・神奈川頸がん予防プロジェクトHP】



【アンケート調査研究申し込みサイト】



【Facebook広告】



図1 横浜・神奈川子宮頸がん予防プロジェクトホームページ Facebook広告からの研究申し込みのイメージ

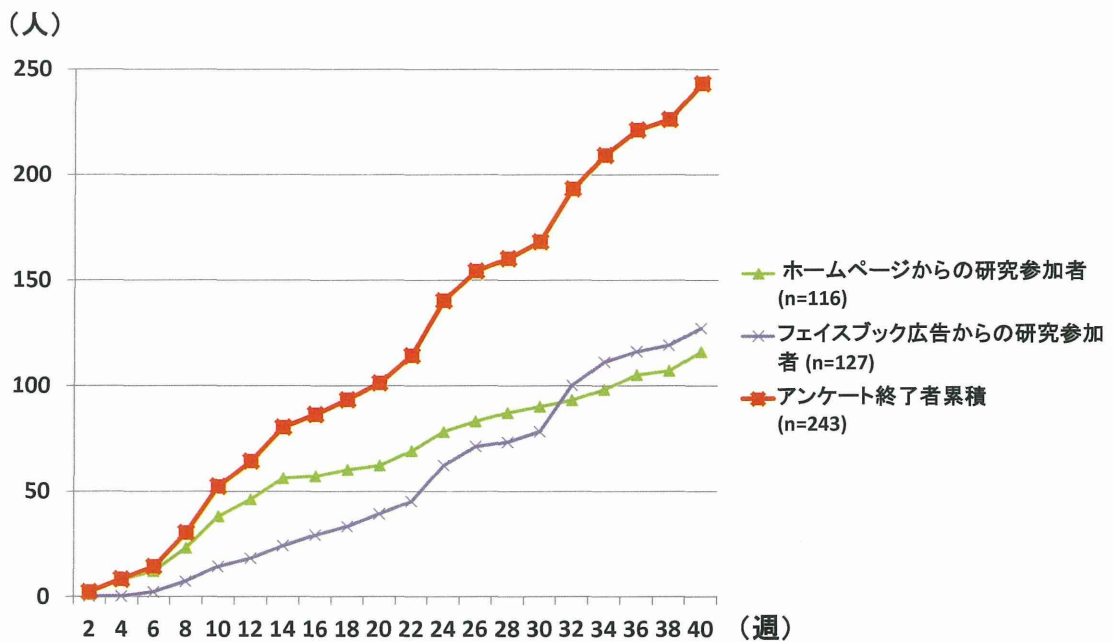


図2 研究参加者リクルートの経過

	人数	割合(%)	神奈川県対象 女性(%)	P値
年齢 (歳)				
16-17	4	1.6	7.4	
18-21	29	11.9	16.8	
22-25	45	18.5	18.4	<0.05
26-30	75	30.9	26.2	
31-35	90	37.0	31.0	
住居				
横浜市	143	58.8	40.4	
川崎市・相模原市	44	18.1	26.4	<0.05
他の市町村	56	23.0	33.3	
最終学歴				
高校卒業未満	5	2.1	16.9	<0.05
高校卒業	47	19.3	34.5	
高校卒業より上	190	78.2	47.3	

表1 アンケートを終了した243人の女性の背景

		16-35歳 n=243		
		人数	割合 (%)	95% CI
HPVを知っている				
	いいえ	78	32.1	26.2 - 38.0
	はい	165	67.9	62.0-73.8
HPV ワクチンを知っている				
	いいえ	47	19.3	14.4 - 24.3
	はい	194	79.8	74.8 - 84.9
HPVワクチンを接種した				
	いいえ	206	84.8	80.3 - 89.3
	はい	30	12.3	8.2 - 16.5
	不明	6	2.5	0.5 - 4.4
子宮頸がん検診を受けた				
	いいえ	51	21.0	15.9 - 26.1
	はい	158	65.0	59.0 - 71.0
	不明	1	0.4	0.0 - 1.2

表2 アンケート終了243人の頸がんに関連した意識と行動

